

令和4年度 学校関係者評価に関する改善結果

	指摘事項	改善策	部会	担当	結果
1	「個別最適な学び」に向けて情報機器を適切に活用すること	日々の指導の中で学年間で情報交換しながら情報機器を積極的に活用する。低学年でも、学習用具の一つとして定着できるよう、更なる情報収集と実践を行う。	研究推進部	教科外	各学年、調べ学習や振り返りの時間などでタブレット端末を活用することができている。音声入力など、入力方法も児童に応じて選択することができている。タブレット端末使用に関するルールに関して、児童と共に改めて取り決めていく。
2	学校と保護者間でICTを用いた学びに相互理解が必要であること	「タブレットの使用船橋ルール」を定め、事例に対応しながら追記をしていき保護者にも周知を図る。保護者との情報共有の機会をもつ。	生活指導部	教科外	今年度、船っ子タブレットルールを改訂した。教員の意見を基に、代表委員会の児童と一緒にルールを考えることができた。今後も自分に合った使用方法を見つけることができるよう、家庭にもルールを配布し、必要に応じて柔軟にルールの改訂を行っていく。
3	コロナ禍における行事の工夫の継続	可能な範囲で工夫して実施を行い、今年度同様オンラインを活用した保護者・地域への発信を検討していく。	行事部	教科外	『図画工作・家庭科作品展～船っ子ビエンナーレ』では、4年ぶりの6学年同時開催を行った。保護者の分散鑑賞や動線を工夫し、滞りなく実施することができた。卒業式では、オンラインを併用して行っている。学校外への配信となると、肖像権や著作権の問題も出てくる。今後検討が必要である。
4	キャリア教育の明確化、保護者への内容の浸透	自分自身がどうなりたいか、どういう力を身に付けたいのか、学習活動について自己の目当てを設定する場を設ける。	研究推進部	教科外	今学期の努力目標だけでなく、次の学年に向けて準備すべきことや目標をもつことを意識付けることができた。総合的な学習の時間を使ってキャリア形成に関する学びも深めることができた。キャリアパスポートをより活用するようにし、児童への活用方法の指導や保護者への共有も更に図っていく。
5	働き方改革の推進	パソコンやデジタル校務の掲示板を活用し、会議の時間を減らす。フォルダの整理や引き継ぎを適切に行う。	教務部	教務	掲示板による連絡を増やし、口頭での連絡を減らしてきた。年間の職員会議回数も13回から7回に減らし、夕方の会議も時間通りに終わるよう、取り組んできた。 校務パソコン内のフォルダも番号を付けて整理し、担当者以外でも素早くデータを見つけられるようにしてきた。
6	幼稚園・小学校・中学校との連携について	可能な範囲で、工夫して行う。内容をHPで配信する。	教務部	教務	2月の研究発表会には、区立幼稚園の園長先生方も招待し、学校での取り組みについて理解してもらった。船橋希望中学校とは、年間3回の交流会をもち、教科の特性や児童対応について共通理解を深めてきた。コロナ禍により、中学校との交流が減っていたが、今年度から再開している。
7	保護者・地域への情報提供の遅れ	コロナ禍における情報提供はオンラインの活用が好ましく、ホームページに素早く校内の情報を掲げていく。	教務部	教務	学校ホームページの学校ニュースでは、年間で545件の記事を取り上げた。各学年の様子や行事での活動など様々で、写真を入れて雰囲気が伝わるよう努力してきた。また、給食のメニューも178件取り上げ、使われている食材の産地が分かるような内容であった。(両方とも3月10日現在のup数) 学校便りや学年便りもホームページ上に素早く取り上げ、保護者や地域の方に情報を伝えてきた。
8	学校運営に関する情報を保護者に周知する方法の検討	「すぐーる」やホームページで周知を図る。	教務部	教務	ホームページに情報は掲載していたので、情報を掲載している旨を発信していく必要がある。
9	学校と家庭との連携を図ること	上記と同じようにコロナ禍においては、情報機器を積極的に活用すること。 行事を可能な範囲で工夫して行うこと。	教務部	教務	欠席・遅刻連絡をすぐーるで行うことで、保護者への負担を軽減することができた。また、多くの配布物をホームページ上に取り上げることで、保護者が手元で閲覧できるようにしてきた。 3学期の学校公開は、制限なしでの公開となり、保護者に余裕をもって参観してもらうことができた。

10	地域と関わることが減っていること	地域のイベント等をできる限り再開することで子どもと地域の関わりを増やす。	教務部	教務	地域のお祭りやぶんか村の活動などに多くの児童が参加していた。地域の行事もコロナ禍前までに戻りつつある。3月18日にはおやじの会主催の校庭バーベキューが開催される。久しぶりの飲食がある行事である。児童もとても楽しみにしている。
11	安全確保	守衛の常駐は難しいが、PTA、学校支援コーディネーターによる安全ボランティア隊活動の充実や登下校時の児童への指導の強化、通学路点検の活動を充実させる。	教務部	教務	安全ボランティア隊の活動が登下校時の児童の安全確保に大きく貢献してきた。また、PTAによる通学路点検や普段のパトロールなど、多くの人に支えられて児童が安全に登校することができた。学校が地域・保護者に支えられていることに教職員全員が感謝している。
12	児童が自分の考えを伝えることに対する主体性の育成	友達への信頼感は高いので、児童の表現力や表現方法の多様性を認め、情報機器を使った関わりも含めて、情報発信能力を高めていく。	研究推進部	教科外	校内研究での取り組みを中心に、グループでの交流や文章を通して相手に考えを伝えることに関する力を児童に育むことができた。次年度も協働的な学びに関する研究を通して、教員の指導力を高めるとともに、指導の充実を図る。